令和４年度みんなでつくる福祉のまち川越プラン　総括シート

＜取組実績の指標＞　　（　）は前年比

基本目標１　地域福祉のきっかけづくり

１－１「おたがいさま」の心を育む

	◎	○	△	×
市・市社協	5　（⇧ 1）	14　（⇧ 1）	1　（⇩ 1）	0　（⇩ 1）
地域	11　（⇧ 5）	8　（⇩ 4）	3　（⇩ 1）	4　（⇨0）

１－２交流の機会を増やす

	◎	○	△	×
市・市社協	7　（⇧ 2）	5　（⇧ 1）	2　（⇩ 3）	0　（⇨0）
地域	14　（⇧ 5）	23　（⇨0）	12　（⇩ 3）	0　（⇩ 2）

基本目標２　支え合いの縁（円）づくり

２－１担い手を支援する

	◎	○	△	×
市・市社協	5　（⇧ 2）	11　（⇧ 2）	0　（⇩ 1）	0　（⇩ 3）
地域	4　（⇨0）	6　（⇨0）	3　（⇧ 2）	2　（⇩ 2）

２－２寄り添い支え合う取組を支援する

	◎	○	△	×
市・市社協	5　（⇧ 1）	9　（⇧ 1）	0　（⇩ 2）	0　（⇨0）
地域	10　（⇧ 3）	15　（⇧ 1）	5　（⇩ 4）	4　（⇩ 1）

２－３分野を超えて協力する

	◎	○	△	×
市・市社協	8　（⇧ 3）	4　（⇩ 3）	0　（⇨0）	0　（⇨0）
地域	3　（⇩ 2）	8　（⇧ 1）	5　（⇧ 1）	0　（⇨0）

基本目標３　不安の少ない暮らしづくり

３－１安心して暮らし続けられるようにする

	◎	○	△	×
市・市社協	11　（⇨0）	12　（⇧ 1）	0　（⇩ 1）	0　（⇨0）
地域	4　（⇧ 1）	6　（⇨0）	0　（⇩ 1）	0　（⇨0）

３－２もしものときに備える

	◎	○	△	×
市・市社協	2　（⇨0）	4　（⇨0）	0　（⇨0）	1　（⇨0）
地域	16　（⇩ 1）	18　（⇩ 1）	10　（⇧ 2）	4　（⇨0）

○自己評価

総取組数304の内訳は、◎：105（＋20、34.5％）、○：143（±0、47.0％）、△：41（―12、13.5％）、×：15（―9、4.9％）となった。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で活動を控えた事業が多かったが、令和4年度は、地域における基本目標１－１「おたがいさま」の心を育む及び１－２「交流の機会を増やす」について、◎が５ポイント増加したのを筆頭に、計画通り実施できた事業が増加した。

一方、令和３年度に比べて△と×が総数としては減少しているものの、地域における取り組みにおいて、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で事業や会議が開催できなかった地区があった。コロナ禍でも事業や会議を実施している地区の事例を提供するなど、働きかけが必要がある。

＜アンケート調査に基づく指標＞

令和4年度と令和元年度に実施した川越市高齢者等実態調査の中で、地域福祉に関連のある項目の結果を比較します。

基本目標１	Ｒ４	Ｒ元	比較
近所との関係：「あいさつ程度」の割合	57.0%	45.3%	↑11.7pt
基本目標２	Ｒ４	Ｒ元	比較
地域活動への参加状況：「現在、参加している」の割合	7.5%	8.6%	↓1.1pt
地域活動への参加状況：「今後、参加したい」の割合	54.8%	65.2%	↓10.4pt
基本目標３	Ｒ４	Ｒ元	比較
困りごとや不安への対応：「心配事や愚痴を言える・聞いてあげる友人がいる」の割合	52.9%	50.5%	↑2.4pt

〇分析

市民の意識を見ると、令和４年時点では地域活動への参加及び参加意欲が全体的に低下している一方で、心配事や愚痴を言い合える友人が増えており、令和２年から本格化したコロナ禍による外出や行動の制限、感染への不安の影響が反映されているものと思われる。
令和５年度は行動制限が撤廃され、各事業の活発化とともに、市民の外出意欲も活発になることが予想されるので、より多くの参加者を募って地域福祉への理解を深められることを期待しつつ、今後の動きを注視していく。

〇重層的支援体制整備事業の評価

令和４年度実績
【全体】
事業周知の一環として、介護保険サービス事業者、障害福祉サービス事業者向けに行っている集団指導（新型コロナウイルス感染症の影響により市ＨＰの閲覧で実施）において、地域福祉サポートシステムの紹介チラシを掲載した。
【各事業】
〇包括的相談支援事業
福祉総合相談窓口を中心に、属性や世代を問わず相談を受け止め、支援を実施。相談窓口は介護・障害こども・困窮部門それぞれに設置。複雑化・複合化した課題については、多機関協働事業につなげた。
〇参加支援事業
引き続き、CSWが担当地区において分野を問わない多世代交流の居場所づくりや担い手の養成等に努めた。また、多機関協働事業に上がってきたケースについて、居場所づくりを検討、提案した。
〇地域づくり事業
市内全域に配置されたCSWが、地域活動の創出や場づくりといった地域支援に尽力した。CSWは介護分野の生活支援体制整備事業におけるSC（生活支援コーディネーター）を兼務していることから、こども食堂の開設・運営支援、家事支援サービスの立ち上げ支援等、幅広く活動している。
〇アウトリーチ等を通じた継続的事業
引き続き、CSWが担当地区においてニーズの掘り起こしやアウトリーチ支援を実施した。
今後は、積極的に多機関協働事業を活用し、複数の支援機関が関わる支援につなげていく必要がある。
〇多機関協働事業
福祉推進課が中心となって重層的支援会議を開催し、複雑化・複合化したケースの検討を行った。

〇川越市社会福祉審議会地域福祉専門分科会の意見

◆重層的支援体制整備事業について、国への報告件数と窓口での相談件数をそれぞれ整理する必要がある
担当ごとではなく、全体で情報共有して課題に取り組むことが望ましい。
◆相談窓口が、身近な存在であることが望ましい。窓口や制度の周知・宣伝に工夫が必要。
◆児童生徒のボランティア教育について、教育現場全体の意識のボトムアップを要する。